

< 2019年6月 >

古賀 順子

「ユーロヴェロ (EuroVelo)」

ヨーロッパ全土を横断する自転車道路の整備が進んでいる。2020年完成を目指して、全長70,000km、19コース(内15は長距離道路)の「ユーロヴェロ(EuroVelo)」計画(ヴェロ(Vélo)とはフランス語で自転車のこと)である。

プロジェクトを推進しているのは「ヨーロッパ・サイクリスト連盟(European Cyclists' Federation)(ECF)。1983年12団体で設立された「ECF」は、現在38ヶ国、80団体、50万人が加盟する大きな活動に発展している。2018年から連盟代表(プレジデント)を務めているのはフランス人クリストフ・ナドヴスキー。パリ女性市長アンヌ・イダルゴの副市長で、ヨーロッパ・エコロジー「緑の党」に所属する政治家である。

「ヨーロッパ・サイクリスト連盟」の主な活動目的は、「ヨーロッパ全土、及び海外での自転車利用の促進」「自転車優先の政策」「お金のかからない観光としての自転車利用」「自然環境を配慮した自転車利用」「健康に良い自転車」「サイクリスト保護」「車や歩行者との共存」など。サイクリング観光を促進し、ヨーロッパ再認識として大きく注目される「ユーロヴェロ」プロジェクトは、各国の政治や経済方針により進捗状況は様々であるが、「現存する国道や県道を利用」「最低2ヶ国横断」「1,000km以上のコース」「特徴的な景観を走ること」を基本にコース設定されている。

「ユーロヴェロ1(EV1)」は「大西洋岸コース」。ノルウェー(カップ・ノール)からイギリス、アイルランド、フランス(大西洋岸の町々)を経由して、スペイン・ポルトガルに至る。全長8186km。

「ユーロヴェロ2(EV2)」は「首都コース」。アイルランド(ダブリン)、イギリス(ロンドン)、オランダ、ドイツ、ポーランド、ベラルーシ(ミンスク)を通って

モスクワまでの5500km。

「ユーロヴェロ3(EV3)」はノルウェー(トロンハイム)とスペイン(サン・ディアゴ・デ・コンポステラ)を結ぶ「巡礼コース」(5122km)。

「ユーロヴェロ4(EV4)」は「中央ヨーロッパコース」(4000km)。

こうした19の順路が設定され、これからフランス夏のヴァカンスで期待が集まっているのが、「ユーロヴェロ8(EV8)地中海コース」(5388km)だ。スペインのカディクスから地中海に沿ってフランス、イタリア、スロヴェニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、アルバニア、ギリシア、キプロスの国々を走ることができる。

自転車でしか出会えない風景、人や自然、動物たちとの触れ合いを求めて車、電車、飛行機を出来るだけ使わない自然環境保護を実感する体験を目指している。大都市パリの自転車事情は、サイクリスト優先ではない。自転車道はないところが多く、バス路線と共有している場合もある。歩道や車道を走らざるを得ないことが頻繁にある。自由に乗り降りできる「ヴェリブ」(2007年から導入されたパリ市内で使える緑色の自転車)は普及したが、日常的に利用する人は少なく、観光利用が多い。最近では、アメリカから入ってきた電動トロチネット(キックスケーター)などの新たな二輪との共存が無秩序的に行われているのが現状である。パリ市長アンヌ・イダルゴは自転車優先を進めており、その結果パリの自動車は終日渋滞し、さらには至るところで道路工事が続き、バイク利用者が急増する一方である。自転車盗難や破損の被害も珍しくない。歩行者、自転車、二輪車、バスや自動車など、大都市における交通網の管理は難しい課題である。

2024年パリ・オリンピックを目標に、道路整備やメトロ工事が進んでいる現在のパリ市内を自転車で移動することは難しいと言わざるを得ないが、週末やヴァカンスを利用して、「ユーロヴェロ(EuroVelo)」の一区間だけでも体験できれば爽快だろうと思う。